

『アジア社会文化研究』投稿規程

1. 『アジア社会文化研究』の目的

『アジア社会文化研究』はアジア社会文化研究会において発表・議論された成果を中心に編集される学術誌であり、2000年3月の創刊以来、これまで年1回のペースで刊行されている。同研究会は、アジア研究にかかわる者が専門分野の粋をこえて学際的に討論し研究の幅を広げることを目的に、主に広島大学大学院総合科学研究科に所属する教員および総合科学研究科と国際協力研究科の大学院生を中心に運営されている。

2. 投稿資格

原則として本研究会の目的に適い、本研究会にて発表した者とする。なお編集委員会（ならびに院生の場合には当該指導教官）が質的に掲載に十分値すると認めた論文の投稿申し込みを受理し、厳正な査読制度の下で掲載の可否を決定することとする。

3. 論文集完成までの過程

- (1) 投稿希望者は9月30日までに所定の用紙（「投稿申込書」）で申し込むこと（電子メールによる添付書式も可）。
- (2) 投稿希望論文の提出期限は12月1日までとする。
- (3) 投稿希望者は本年度の研究会において、投稿論文の主題に沿った発表を少なくとも一度以上行わなければならない。ただし海外居住者や遠隔地に居住する者、また長期に渡り海外での調査活動に従事している者の場合等においては、編集委員会での審議を経たのちに、レジュメ等の提出で発表に代えることができる。
- (4) 発表と投稿論文の提出を終えた者から随時、査読制による審査を受け、そこでの結果により、掲載の可否が決定される。
- (5) その後、編集作業（投稿論文の加筆・修正を要請することがある）を

経て、翌年の3月末日に刊行する。

- (6) 本誌は、原則としてその内容を広島大学学術情報リポジトリにおいて発行次年度に公開するものとする。

4. 執筆要項

- (1) 掲載論文の種類および分量

- ①論説：16000～20000字程度（400字詰め原稿用紙で40枚～50枚程度）
- ②研究ノート：12000字程度（同30枚程度）
- ③研究動向・調査報告・資料紹介等：8000字程度（同20枚程度）
- ④書評：4000字程度（同10枚程度）

- (2) 要旨について

上記①に関しては、執筆者の責任において英文による要旨（200words程度）を提出すること。

- (3) 書式等

原則として「ワード」横書き（34字×30行）で、本文を記述する言語は日本語に限る。ただし、引用など必要に応じた他言語の使用は認める。また、「ワード」の編集機能やレイアウト機能などは使用しないこと。なお、規定の書式から著しく外れたものは投稿を受理できない場合がある。

- (4) 原稿の提出方法と提出先

投稿希望者は上記①～④に該当する原稿を作成し、編集委員会宛に以下のものを提出すること。

- (a) 電子メールの添付ファイルもしくはUSBなど
- (b) 印刷したものの1部（直接・郵送いずれも可）

なお投稿申し込みが受理された場合、投稿者は編集委員会の指示に従うものとする。

5. 書式の設定

- (1) フォント・文字サイズなど

タイトル	MS ゴシック	フォントサイズ 11
------	---------	------------

章見出し	MS ゴシック 1. 2. 3. ... (全角, フォントサイズ 10)
節見出し	MS ゴシック (1) (2) ... (半角, フォントサイズ 9)
本文	MS 明朝 フォントサイズ 9
数字・英文	章, 節見出し以外は全て「Century」
脚注	文末脚注 脚注番号は「アラビア数字」で設定
参考文献	必要に応じて「注」の後に別途に掲載
連絡先	論稿末尾に執筆者の電子メールを記載 (希望者のみ)

(2) ページ設定

「ワード」: ツールバーの「ファイル」→「ページ設定」にて設定

文字数と行数	余白	用紙サイズ
文字数 34	上 30mm	用紙サイズ A4 印刷の向き 横
	下 30mm	
行数 30	外 20mm	
フォント MS 明朝	内 25mm	
フォントサイズ 9	とじしろ 0	
段数 1	ヘッダー 15mm	
	フッター 17.5mm	
横書き	印刷の向き 袋とじ とじしろの位置 横	

(2015 年度改定)

問い合わせ (編集委員会)

アジア社会文化研究会代表: 三木直大 (広島大学大学院総合科学研究科教授)

naomiki@hiroshima-u.ac.jp

アジア社会文化研究会: asiasyabunken@gmail.com

アジア社会文化研究会 ML: asiasyabunken@googlegroups.com

『アジア社会文化研究』（第 号）投稿申込書

年 月 日

名 前	フリガナ
	日本語名
	英語名
所 属	
連 絡 先	住 所
	電 話
	E-mail

1. 投稿を希望する原稿の種別（○をつけて下さい）

論説		研究 ノート		研究 動向		資料 紹介		書評	
----	--	-----------	--	----------	--	----------	--	----	--

2. 原稿題目（仮題目でも可）

日本語（主題と副題）
英語（主題のみ）

3. 日文要旨（400～600字程度で記入して下さい）

<div style="border-bottom: 1px dotted black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dotted black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dotted black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dotted black; margin-bottom: 5px;"></div>

研究会のあゆみ（2015年度）

第177回：7月22日（水）

発表者：田中和夫（総合科学研究科博士課程後期）

「親鸞と密教」

司会：三木直大

第178回：10月2日（金）

発表者：肖男（国際協力研究科博士課程後期）

「中国における歴史的町並み保存の社会化——大連市有形文化財保存条例の策定を事例として」

司会：楊小平

執筆者紹介（掲載順）

中井智香子 香港大学華正中国教育研究センター客員研究員

田中和夫 広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期

林 巾力 国立台湾師範大学台湾語文学系副教授

三木直大 広島大学大学院総合科学研究科教授

廣瀬光沙 広島大学大学院総合科学研究科博士課程前期修了

黄 慕蓉 広島大学大学院総合科学研究科博士課程前期

水羽信男 広島大学大学院総合科学研究科教授

編集後記

『アジア社会文化研究』第 17 号をお届けします。大学院生を中心とした持続的な研究会運営の再開という、ここ数年の課題の実現には至っていませんが、一定数の投稿申込みもあり、本年度も刊行することができました。とは言え、地域研究を志して博士課程後期に進学しようとする大学院生は減少の一途をたどっています。グローバル人材の育成や国際協力、社会連携の推進や社会貢献をという、その言葉の意味を深く問うこともないままの掛け声のなかで、エリア・スタディーズとしての地域研究そのものの周辺化がすすんでいるように思えます。またそれ以上に、若い大学院生たちに後期課程への進学を思いとどまらせているのは奨学金問題です。以前とは違い教員や研究者になっても奨学金の返済は免除されませんし、たとえ任期付であれポスト数も限られています。学部から大学院修了まで奨学金をもらい続ければ、その額は最大で 600 万円から 700 万円くらいにまでなってしまうでしょう。もっとたくさんの金額になるかもわかりません。国立大学法人の授業料もさらなる値上げに向かいそうです。しばしば指摘されるように、GDP 比に占める日本の文教予算額はやはり低いと言わざるをないのではないのでしょうか。しかしどうしてこんなことになってしまったのか、どうすればよいのか、頭を抱えるばかりです。(三木直大)

編集委員：三木直大（編集委員長）

荒見泰史 高谷紀夫 崔真碩 外川昌彦 長坂格 丸田孝志

水羽信男 吉村慎太郎

アジア社会文化研究 第17号

2016年 3月30日

アジア社会文化研究会

広島大学大学院総合科学研究科内

Eメールアドレス：asiasyabunken@gmail.com

HP アドレス：http://ajiashakaibunka.blog42.fc2.com/

〒739-8521 広島県東広島市鏡山1丁目7番1号

編集委員会連絡先

広島大学大学院総合科学研究科・総合科学部 三木直大

電話：082-424-6356（三木研究室）

Eメールアドレス：naomiki@hiroshima-u.ac.jp

〒739-8521 広島県東広島市鏡山1丁目7番1号